

歯肉活性を期待した活用方法

リペリオ



監修 | 歯科衛生士 宮本さくら

 Weltec

歯肉マッサージ剤として活用されるリペリオ

私自身もリペリオを歯肉マッサージ剤として使用して、患者さんから「気持ちよかった」と満足のお声をいただいたり、歯周組織の状態が改善したと感じた経験があります。このような経験をした歯科衛生士の方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

マッサージ後の歯肉がキュッと引き締まった感覚や、スッキリとした清涼感を体験された患者さんは明らかに反応が良くなり、同じ満足感を求めて歯科医院にまた戻ってきてくださいます。もちろん技術による部分はありますが、この効果にはリペリオの配合成分に由来するところがあります。

表1. リペリオの配合成分と期待される作用

リペリオの配合成分	期待される作用
OIM加水分解コンキオリン	歯周組織の回復促進
グリチルリチン酸ジカルcium	炎症抑制
酢酸DL- α -トコフェロール	血行促進
塩化ナトリウム	歯肉のひきしめ・血行促進



リペリオにはフッ素も殺菌剤も配合されていません。(表1参照) その代わりに、歯周組織に作用する成分が多く配合されていることが分かります。まさに歯周組織の回復のことだけを考えた歯磨剤といえ、歯周病症状のある患者さんに歯肉マッサージ剤として使うことが有効であると想像できます。歯周病の治療後にリペリオを併用することで、歯周組織を活性化し、相乗的に回復へと導くことが期待できます。そして私自身が実感していることは唾液分泌を促進させる効果が高いということです。唾液は口腔環境の維持に重要な役割を果たしていますので、ドライマウスの患者さんにも有用な歯磨剤だといえます。



事例紹介

症例1の患者さん(45歳男性)は初診時、歯間乳頭に炎症が見受けられ、重度部位が散見されました。歯周基本治療(SRP)をブロックに分けて行いながら、リペリオをセルフケアで継続いただきました。初診時の検査データ4~8mmのポケット部位が、全て3mm以下の正常値になり炎症が改善しました。

症例2はリペリオ長期使用の事例紹介です。患者さん(59歳女性)は歯肉退縮の悩みを持っておられました。リペリオを紹介したところ、患者さん自身が気に入ってくださり、ホームケアでかかさずご使用くださっていたようです。4年3カ月経過後の評価において、歯肉退縮が進行することなく、安定した口腔内環境が維持できています。

リペリオは歯肉炎や歯周炎の患者さんで、歯肉の炎症を改善したい場合には回復を早めるのに効果的だと感じています。使用後の歯肉が引き締まった感覚は患者さんが実感しておられて、ブラッシングを丁寧に行うとこんなに歯肉がしっかりして、さっぱりと気持ちが良いものなのかとブラッシングへのモチベーションが上がります。

■ 症例1 (45歳男性)



初診時



再評価時

■ 症例2 (59歳女性)



初診時



4年3ヶ月経過後

リペリオの使用対象者について

私がリペリオを臨床で使用しているタイミングと使い方について記します。

● 歯肉炎の患者さん(特に浮腫性歯肉で炎症が表に出やすい方)

理由

患者さんご自身に歯肉の引き締まりを実感いただくことができる。
見た目の変化だけでなく、実際に歯肉がキュッと引き締まった感覚が得られる。

● 歯周病症状が中等度～重度の患者さんの歯周基本治療の期間中

理由

歯周治療後の創傷治癒促進効果と歯肉退縮の抑制効果も期待して選択。
症状が慢性化しているので、患者さんは状態が悪いという感覚をもっていない。
歯周治療と並行してこちらが提案したツールとリペリオを一緒に使って
いただくことで『共に治療を行う』意識を患者さんに持っていただく。
患者さんに「リペリオは歯ぐきを引き締めて組織の回復を助けてくれる
ペースト」とお伝えし、薬のような感覚で毎日使っていただく。

● 歯周病患者さんの歯肉マッサージに利用

理由

刺激が無く、使用後の歯肉のひきしめ効果とさっぱり感が患者さんに好評。
歯周病の患者さんは来院が中断しないことが大切。
患者さんのちょっとした気づきを増やしながらかマッサージの気持ち良さを
体感していただき、継続来院に繋げるツールとしてリペリオを利用。

歯肉マッサージを、現場に

自費で歯肉マッサージを行い付加価値をつけることも良いと思います。私の場合は、保険治療の患者さんにも短時間で多くの『気づき』を与えられるマッサージを目的に合わせて導入しています。ストレスで自覚なく食いしばっている患者さん、ブラキシズムによる口腔内への影響が気になる患者さん、唾液分泌が減り口腔内が乾燥気味の患者さん、口腔機能が低下傾向にあるご高齢の患者さん、歯科医院が苦手な恐怖心の強い患者さんなど・・・、心身をリラックスしていただき、気持ちの良い体験を通じて私たちから伝えられる情報はたくさんあります。また、口腔内を触ることでの私たち歯科衛生士側の気づきもあります。口腔に興味を持っていただくきっかけづくり、短時間でできる歯肉マッサージを臨床現場にぜひ取り入れていただきたいと思います。

応用事例

リペリオは、歯周病症状や口腔乾燥の見受けられる患者さんに有効だと感じています。『リペリオの塩味がちょっと・・・』と言われることもありますが、使用後の満足感や効果のほうを上回ると思います。いろいろと工夫した使い方を試してみてください。

私のリペリオの活用方法を紹介します。私の場合、クリーニング最後のPMTCで、ラバーカップだけでなく三角形のコーンも使用します。コーンをリペリオとともに使っていただくと、これがまた気持ちが良いのです。いつも通りにPMTCをしていただいた後、洗い流したりうがいをしてもらわなくても大丈夫です。そのままコーンに付け替えて歯間乳頭部や歯肉辺縁をマッサージするように当てていきます。この時にリペリオを少量ずつ塗布しながら軽い圧でリズムカルに行ってみてください。

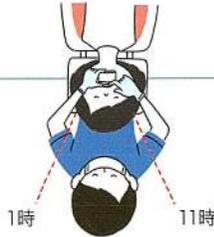
うがいをされた後の患者さんは、きっと笑顔でうれしい感想を伝えてくださるはずですよ。

コーンとリペリオで歯肉を気持ちよくマッサージするように施術する



歯肉マッサージの実践

1 姿勢

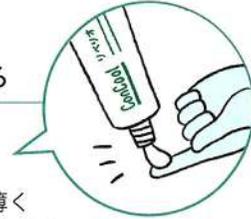


- 姿勢を正し、腕が上がらないようにポジショニング

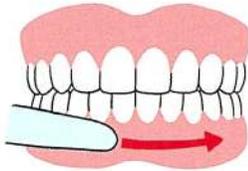
2 リペリオを片顎で1cm程度指先に出し両指に絡める



- 指先から第2関節まで薄く行き渡るよう馴染ませながら、人肌程度に温める。

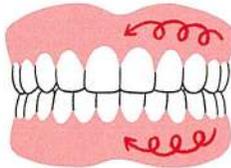


3 歯列に沿ってスライドさせる



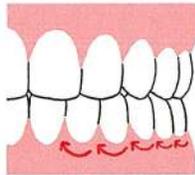
- 3回程度往復させ、歯肉全体にペーストを塗布していく。

4 円を描くようにクルクルと



- 下顎では下から上に、上顎では上から下に。スピードはゆっくり。速すぎるとリラックス効果減少。

5 歯間乳頭部の指圧



- 歯間乳頭部で指圧。圧を加えるときは、指先で少し強めに3秒間刺激する。

6 しっかりとお口をすすぐ

マッサージのリズムやスピードは一定に保ちましょう。ケアタイムに応じて各工程の往復回数は調整(増減)できます。メンテナンス後の数分間で患者さんに体感していただき、リペリオを使って歯肉を活性化しましょう！

歯周病を意識していただくために

ほとんどの初診の患者さんはご自身が歯周病であることを認識されていません。

歯周病はSilent Diseaseとも表現されるように、かなりひどくなるまで自覚されることのない病気です。

歯周病を意識していただくために、初回に集めたX線写真・歯周精密検査・口腔内写真等のデータを使い“具体的に自分の状態が理解できる”ように説明をしていきます。

よく理解できていないのに、ひたすらブラッシング指導をされても、患者さん自身に『磨こう!』という気持ちは芽生えません。

自分で見えないところの説明は、患者さんは関心をもって耳を傾けてくださいます。

あとは、「変化」が患者さんの行動変容のためのモチベーションになりますので、改善したところはしっかりお伝えしていきます。

患者さん自身にも「出血しなくなった」、「歯肉が引き締まってきた」、「口のねばつきが無くなった」などの実感が伴うと、より興味を示してくださるようになります。そのために「見えないところを明示すること」と「変化を実感していただくこと」は日々のコミュニケーションで大切にしています。

予防歯科においては、継続が重要です。継続するためには、患者さん自身のモチベーションを維持することが大切で、患者さんのライフスタイルに応じた、もしくは患者さんのその時のニーズに応じた提案が必要になります。私たち歯科衛生士も、いつも同じコミュニケーションでなく、状態を見極め、工夫を凝らし、多彩なコミュニケーションで予防歯科を実現していくことが、これからの歯科衛生士に求められていることではないかと思えます。

歯科衛生士 宮本 さくら

